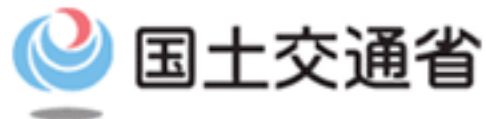


[illegible]

スマートシティ推進のための官民連携推進フォーラム

令和7年10月27日(月) 11:00~16:00



本日のプログラム

11:00~11:05

1 開会

2階会議室B

11:05~12:05

2 講演

2階会議室B

12:05~13:30

視察・昼休憩

13:35~13:45

3 令和8年度スマートシティ
実装化支援事業の紹介

2階会議室B

13:45~14:15

4 ピッチ

2階会議室B

14:30~15:15

5 サウンディング

テーマ①②：6階フロアB
テーマ③：6階D01

15:20

6 閉会

6階フロアB

15:20~16:30

懇親会（ネットワーキング）・都市局との個別相談会

1 開会

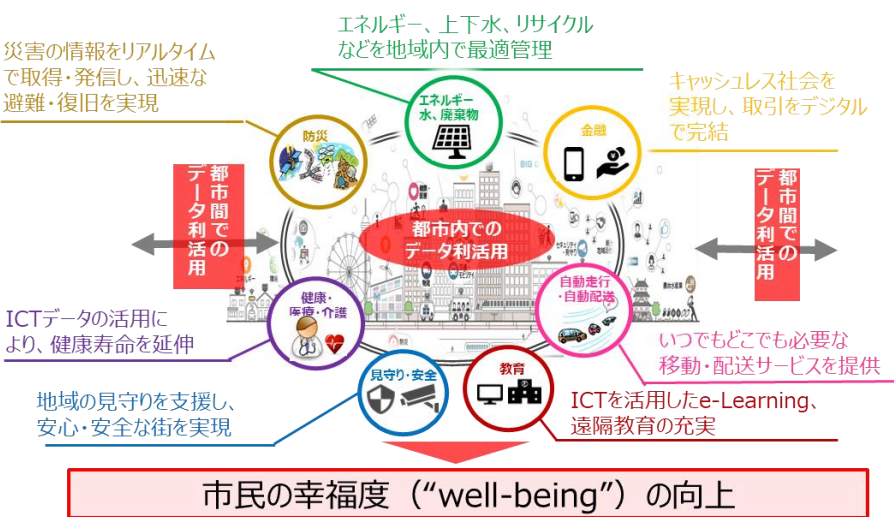
スマートシティ推進のための 官民連携推進フォーラム

国土交通省 都市局 国際・デジタル政策課
デジタル情報活用推進室

スマートシティとは（スマートシティガイドブックより）

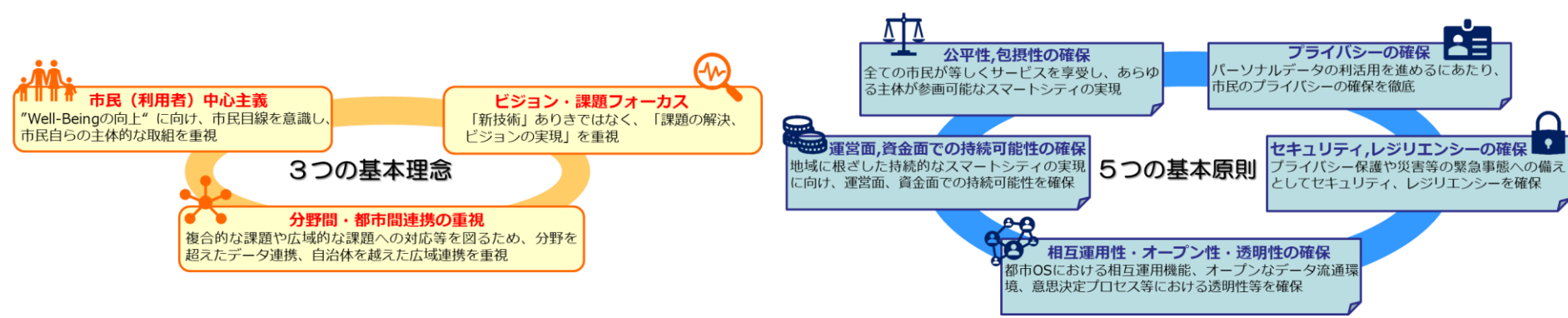
スマートシティの定義

- ①スマートシティガイドブックの基本理念、基本原則に基づき
- ②新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメントの高度化等により
- ③都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける
- ④持続可能な都市や地域



スマートシティの基本コンセプト

以下の3つの基本理念および5つの基本原則をスマートシティの基本コンセプトとする



スマートシティの政府の推進体制と官民連携プラットフォーム

- Society5.0の実現に向け、政府一丸となって、さらに産官学の連携によりスマートシティの取組を推進

政府一丸となったスマートシティの推進体制

統合イノベーション戦略推進会議

議長：官房長官、議長代理：科学技術担当大臣

指示 ▼▲ 報告

スマートシティ・タスクフォース会合

関係府省（事務局：内閣府）

○関係府省連携による施策推進体制

内閣府

全体総括
スマートシティの設計図
(アーキテクチャ)の構築

デジタル庁

デジタル社会重点計画
など策定

モデル事例の構築と全国への横展開

国交省

(都市局)

都市インフラに関連し、複数分野に跨るモデルプロジェクト

総務省

データ連携基盤を整備し、複数分野に跨るプロジェクト

国交省・経産省

(総合政策局)

新たなモビリティサービスのモデルプロジェクト

産官学連携によるスマートシティの推進体制

官民の知恵やノウハウを結集してスマートシティの取組を加速すべく、企業、地方公共団体、大学、関係府省等を構成員とした官民連携プラットフォームを令和元年8月に設立。

官民連携プラットフォームの構成（合計975団体）

会員（事業実施団体）643団体

企業等
(408団体)

大学・研究機関
(48団体)

地方公共団体
(187団体)

会員
(経済団体等)
3団体

会員（関係府省）12団体

内閣官房 警察庁 金融庁 文部科学省
厚生労働省 農林水産省 環境省
事務局 内閣府 総務省 経済産業省 国土交通省 デジタル庁

オブザーバー会員
(317団体)

(R7年9月1日時点)

①事業支援

各府省のスマートシティ関連事業を実施する会員に対して、資金面に加え、ノウハウ面でも各府省が一体となって支援

③マッチング支援

解決したい課題を持つ地方公共団体等と、解決策やノウハウを持つ民間事業者等とのマッチングを支援

②分科会

共通する課題を抱える会員相互で課題の解決策等の検討のため分科会を開催（分科会の成果は会員間で共有）

④普及促進活動

各地におけるスマートシティの取組の普及や、モデル事業で得られた知見等の横展開を図るための活動を実施

スマートシティ官民連携プラットフォーム

スマートシティの取組を官民連携で加速するため、企業、大学・研究機関、地方公共団体、関係府省等を会員とする「スマートシティ官民連携プラットフォーム」を令和元年度に設立
官民が一体となって全国各地のスマートシティの取組を強力に推進

スマートシティプロジェクト

全国各地のスマートシティ

全国各地で、様々なスマートシティの取組が始まっています。
各府省のスマートシティ関連事業におけるプロジェクトをご紹介します。

エリア: 北海道 | 東北 | 関東 | 北陸 | 中部 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄 | リセットC

機 関: 内閣府「SIPアーキテクチャ構築及び実証研究」 | 内閣府「未来技術等社会実装事業」 | 総務省「地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」 | 経済産業省「地域新MaaS創出推進事業」 | 国土交通省「スマートシティ実装支援事業」 | 国土交通省「日本版MaaS推進・支援事業」 |

課 題: 交通・モビリティ | エネルギー | 防災 | インフラ維持管理 | 観光・地域活性化 | 健康・医療 | 農林水産業 | 環境 | セキュリティ・見守り | 物流 | 都市計画・整備 |

プロジェクト一覧表ダウンロードD

ひがし北海道観光型MaaSにおける移動及び車両データ収集、利活用実証 (WILLER 株式会社)

世界トップレベルの「スマート一次産業」の実現に向けた実証フィールド形成による地域創生
北海道: 北海道、岩見沢市、更別村

Universal MaaS〜誰もが移動をきかめない世界へ〜
北海道: 札幌市・旭川市、横須賀市

スマートウェルネスシティ協議会
北海道: 札幌市

スマートシティの取組み

スマートシティに関するニーズ・シーズ集

会員及びオブザーバーよりご提案いただいた、スマートシティに関するニーズ・シーズ提案を、下記「+」マークをクリックした先に掲載しております。
新規フォーマットでニーズ・シーズ提案を行っていただいている団体は各団体独自のサムネイルで表示しております。

- + ニーズ提案 [ニーズ提案一覧表ダウンロードD](#)
- シーズ提案 [シーズ提案一覧表ダウンロードD](#)

課題: 交通・モビリティ | エネルギー | 防災 | インフラ維持管理 | 観光・地域活性化 | 健康・医療 | 農林水産業 | 環境 | セキュリティ・見守り | 物流 | 都市計画・整備 |

団体名順: # | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z | あ行 | が行 | さ行 | た行 | な行 | は行 | ま行 | や行 | ら行 | わ行 |

地方公共団体の課題・目標を解決・実現するために、ガラスアンテナ・IoT機器の設置技術
AGC㈱

児童の登下校時の安全対策強化、他分野における業務の効率化やデータ連携まで、一括対応するアプリ（クラウド）サービス HAZARD Buster
㈱ALL LINKAGE

「AIが子どもに付き添い、見守る」をコンセプトに開発された子ども見守りGPSサービス
Bsize㈱

検証可能なスキル、暗号化技術を活用した認証、書類のDX化を促し、あらゆる社会活動における信頼性と効率性を高める技術
Digit.link Japan合同会社



官民連携を促進する中心的な団体

持続可能なスマートシティのビジネスモデルの構築を目指し、地域に根差しながら課題を深掘り、自ら地域の課題解決に必要なデジタル技術を持つプレイヤーを巻き込み、官民連携を促す団体

(都市再生推進法人、アーバンデザインセンターなども含む)

期待役割

地域のビジョン・構想検討 (ビジネスモデル含む)

- 各種ステークホルダーにとって魅力のある地域のビジョンや構想を設定すること
- 投資回収ができるビジネスモデルを検討し、ステークホルダーに提示すること

財源確保の仕組み構築

- 民間事業者からの投資や住民主体のタウンマネジメント組織組成によるサービス利用料徴収の仕組みを導入するなど、取組に必要な財源確保の仕組みを構築すること

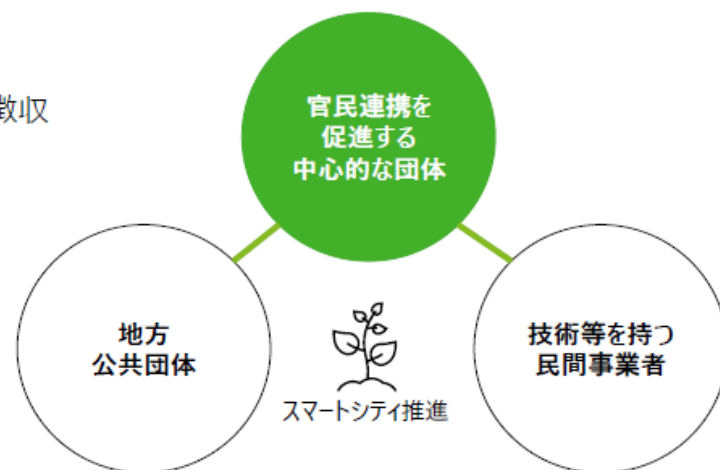
域内外を繋げる

- 域内にゆかりのある人々や団体への呼びかけをすること
- アーキテクト (スマートシティの設計・構築・運営において中心的な役割を果たす専門家) を擁立すること
- 域内外の民間事業者との繋がりを持ち、必要に応じて繋げる
- 各主体の役割を整理すること

スマートシティに取り組む土壌づくり

- 行政の巻き込みをすること
- 住民への理解醸成など、スマートシティ推進に向けた土壌づくりをすること

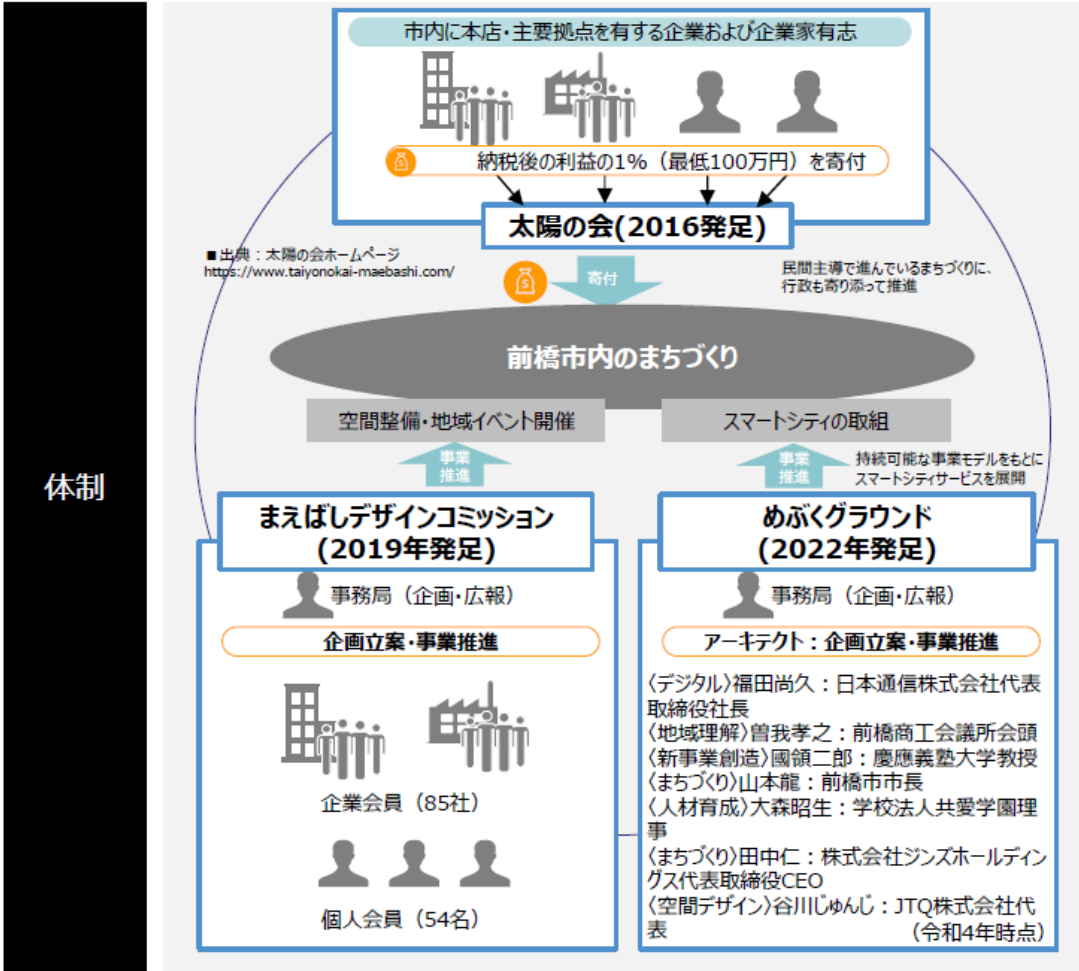
(イメージ)



前橋市×スマートシティ

- 前橋市は国のスマートシティ指針に沿い、**独自ID「めぶくID」とデータ連携基盤を整備**し、行政・医療・交通・商業など多様な**官民サービスを一元的に提供**。
- 市役所だけでなく、官民連携組織「めぶくグラウンド」が中核となって企画・実装を主導している点で、**自治体予算に依存しない持続可能な運営体制を確立**。
- 資金面でも、企業出資や地域金融機関に加えて、成果連動型民間投資（SIB）などの**先進的なファイナンス手法を導入**し、社会課題解決と民間投資の両立を図っている。

代表プロジェクト	前橋めぶくグラウンド構想
共創パートナー	<ul style="list-style-type: none">●(一社)まえばしデザインコミッション●官民共創会社めぶくグラウンド(株)
共創パートナーの概要	<ul style="list-style-type: none">✓ 民間視点で前橋市が今後100年先の未来に向けて進めるべき道を考えためぶくビジョン発表と同時に市内企業23社(2024年時点で56社)で太陽の会を結成✓ 太陽の会の寄付を原資とし、「まえばしデザインコミッション」が市内のシンボルづくりと公共空間のリノベーションを実施✓ 2022年に官民共創会社「めぶくグラウンド」を設立し、スマートシティの構想づくり～基盤・先進的サービスの構築運用を推進
事業成功の要因	<ul style="list-style-type: none">・ 地元出身者が強力なリーダーシップと熱量をもって地方創生に積極的に関与、太陽の会の立ち上げやまちづくりに興味のある民間事業者のつながりを作り出した・ 参画企業が毎年純利益の1%をまちづくり基金として拠出し、ハード整備などに使う持続的な民間資金プールを形成した・ めぶくグラウンド(株)の設立により、スマートシティを持続可能なものとして展開するための事業モデルが構想され、事業者からの投資を喚起し、迅速な経営判断をもとに、実行を支援する民間会社等との連携体制が構築されている



2 講演

登壇者のご紹介



前橋市 都市計画部 市街地整備課

課長 纈纈 正樹氏



都市推進再生法人（一社）

前橋デザインコミッション ソーシャルデザイン

マネージャー 富士田 通子氏



めぶくランド株式会社

代表取締役社長 木暮 正樹氏

<登壇内容のポイント>

- 前橋市アーバンデザイン
 - ◆ 民間主体のまちづくりの考え方・計画の考え方等
 - ◆ 民間ビジネスモデルの基盤となる地元住民・民間事業者との関係性構築
- 行政視点での事業推進のポイント・スマートシティの在り方

<登壇内容のポイント>

- 馬場川通りアーバンデザイン・プロジェクト
 - ◆ 都市利便増進協定による公共空間の整備・管理
 - ◆ 民間寄付と支援事業による資金調達
 - ◆ 国内初のまちづくりにおけるPFS/SIBの導入
 - ◆ 地域資源を生かした空間デザイン

<登壇内容のポイント>

- めぶくランド株式会社の設立背景
 - ◆ 資金調達、体制管理、ビジネスモデル
- めぶくID・データ連携基盤の紹介
 - ◆ 連携アプリケーションの紹介

視察・昼休憩

視察集合場所のご案内 ※任意参加

【集合場所住所】

前橋デザインコミッション前

〒371-0023

群馬県前橋市本町 2 丁目 1 - 6



群馬銀行前橋支店前

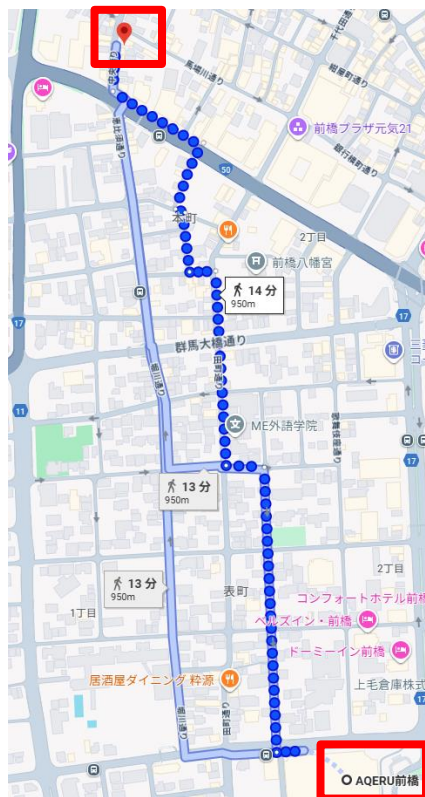
駐車場スペース

〒371-0023

群馬県前橋市本町 2 丁目 2 - 1 1



▼目的地



◯ AQERU前橋 ◀ 現在地

▼目的地



◯ AQERU前橋 ◀ 現在地

③ 令和8年度スマートシティ実装化 支援事業の紹介

令和8年度スマートシティ 実装化支援事業の紹介

国土交通省 都市局 国際・デジタル政策課
デジタル情報活用推進室

政府のスマートシティ関連事業（令和7年度予算）

	内閣府 (地方創生推進事務局)	総務省 (情報流通行政局)	国土交通省 (都市局)	経済産業省 (製造産業局)	国土交通省 (総合政策局)
事業名	未来技術社会実装事業	地域社会DX推進パッケージ事業（補助事業）	スマートシティ実装化支援事業	地域新MaaS創出推進事業	日本版MaaS推進・支援事業（「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト）
概要	未来技術を活用した地域課題の解決と地方創生を目指し、先進性と横展開可能性等に優れた地方公共団体の取組に対して、社会実装の実現に向けた現地支援体制を構築し、関係府省庁による総合的な支援（複数年継続する伴走型支援）を実施	デジタル人材/体制の確保支援、AI・自動運転等の先進的ソリューションや先進無線システムの実証、地域の通信インフラ整備の補助等の総合的な施策を通じて、デジタル実装の好事例を創出し、全国における早期実用化を目指す（都市OS構築を伴う補助事業についてのみ合同審査の対象）	先進的技術等を活用し、まちの課題を解決し、新たな価値を創出するため、都市活動や都市インフラの管理及び活用を高度化するスマートシティの実装に向けて、各地区のスマートシティに関する取り組みを支援	将来的な技術の進歩も見据え、地域の移動課題の解決を図りつつ、モビリティ関連産業の裾野拡大や競争力強化に繋がる新たなビジネスモデルの創出・横展開に資する先進MaaS実証を推進	複数の交通事業者の連携・協働により、多種多様な交通サービスを「一つのサービス」として利用可能とすることで、マルチモーダルかつシームレスな移動体験を提供するMaaSを活用して、移動環境の向上やコンテンツ連携による地域課題解決に資する取組に対する支援
R7年度予算	0.7億円の内数	8.5億円（R6年度補正74億円の内数）	2.4億円	数億円	326億円の内数
過去の選定数	H30:14事業、R1:8事業、R2:12事業、R3:9事業、R4:10事業、R5:2事業、R6:1事業	H29:6事業、H30:3事業、R1:5事業、R2:5事業、R3:9事業、R4:12事業、R5:8事業、R6:8事業	R1:15事業、R2:14事業、R3:20事業、R4:14事業、R5:13事業、R6:13事業	R1:13事業、R2:16事業、R3:14事業、R4:11事業、R5:8事業、R6:6事業	R1:19事業、R2:36事業、R3:12事業、R4:6事業、R5:6事業、R6:8事業
主な支援対象	社会実装に向けた関係府省庁による総合的な支援（各種交付金・補助金の活用や、制度的・技術的課題等に対する助言等）※実証実験等の自治体の取組に対する財政措置はありません	デジタル技術を活用して地域課題の解決を図るために必要な通信インフラなど（ローカル5G/LPWAなど）の整備費用を補助（補助率1/2）	実証事業（定額補助（スマートシティ実行計画等に基づく事業において、補助事業者が負担する額を超えない範囲とする）	モビリティを活用した新たなビジネスモデルの実証を委託事業として実施	・広域的、先進的なMaaS等の取組についての支援 ・新たな決済手段や新しい移動サービスの導入支援、運行情報等のデジタル化支援（補助率2/3または1/2（地域区分による））
問合せ先	未来技術実装担当 電話：03-6206-6175	地域通信振興課 ict-town*ml.soumu.go.jp	スマートシティプロジェクトチーム hqt-smartcity-mlit*gxb.mlit.go.jp	自動車課モビリティDX室 bzl-contact_mobility_pt*meti.go.jp	モビリティサービス推進課 hqt-mobilityservice1002*gxb.mlit.go.jp

※迷惑メール対策のため、「@」を「*」と表示しております。送信の際には、「@」に変更してください。

国土交通省 スマートシティ実装化支援事業

全国の牽引役となるモデルプロジェクトとして、地域のスマートシティ実行計画に基づき、データや新技術を活用した先進的な都市サービスの実装に向けて取り組む実証事業を支援。

スマートシティ実装化支援事業
補 助 **2.4 億円** (R7当初)

補助要件等（令和7年度採択事業公募時点）

	通常タイプ	都市サービス実装タイプ	戦略的スマートシティ実装タイプ [°] 令和7年度創設
補助対象	実行計画に基づく先進的な都市サービスの実装化に向けて取り組む実証事業	実行計画に基づく先進的な都市サービスについて、早期に実証からまちへの実装までを一体的に実施する事業	国が定める特定の政策テーマに関する先進的な都市サービスについて、早期に実証からまちへの実装までを一体的に実施する事業
支援条件	①民間事業者等・地方公共団体を構成員に含むコンソーシアムであること ②都市・地域のビジョン、取組内容等を記載した「スマートシティ実行計画」を策定、コンソーシアムがHPに公開していること	①② 左と同じ ③早期に実証からまちへの実装までを一体的に実施する事業であること（2027年度までに実装すること） ④スマートシティ実装計画（複数年にわたる計画も可）を定めること	①②③④ 左と同じ ⑤国が定める特定の政策テーマに合致した事業であること
補助率	定額補助（上限1,500万円）※	定額補助（上限3,500万円）※	定額補助（上限5,000万円）※

※実行計画に基づく取組のコンソーシアム負担額が国の補助額を上回ること

令和8年度の戦略的スマートシティ実装タイプにおける政策テーマ（案） ※今後変更する可能性があります

【テーマ①：地域資源の発掘・発信による地域の賑わい・生業創出】

地域資源（自然・伝統文化・ローカル産業・人的資源など）の収集・データベース化し、地域資源への情報アクセスや利活用を促進、地域資源の活用ニーズと活用アイデアを掛け合わせ、新たなビジネスモデルを創出する仕組みの構築 等

【テーマ②：地域における屋内外の面的な見守りのデジタル化】

世帯単位を対象とした見守りを地域に広げ、屋内外で面的な見守りを実現するとともに、地域組織等による迅速な対処を可能とする体制・システムの構築 等

【テーマ③：リアルタイムでの環境情報の提供等による回遊の高度化（暑熱対策等）】

エリアの気温、日陰情報等をリアルタイムで可視化するとともに、住民の快適性を低下させないスポットの創出・ルート案内等の手法の開発（通年における技術活用を含む） 等

- ・ 本テーマに合致するニーズをご提出された地方公共団体については、優先的に民間事業者の技術・サービスのご提案、さらには両者のコミュニケーションの場を設けることでマッチングを支援いたします。

テーマ案1：地域資源の発掘・発信による地域の賑わい・生業創出

デジタル技術を活用し、地域資源の有効活用によって地域における共創経済の創出を目指します

目的

地域の多様な資源が十分に利活用されていない現状を踏まえ、デジタル技術による発掘・発信を通して、地域内外への情報発信力を高めるとともに、地域の賑わい・生業を創出する

想定するサービスの範囲

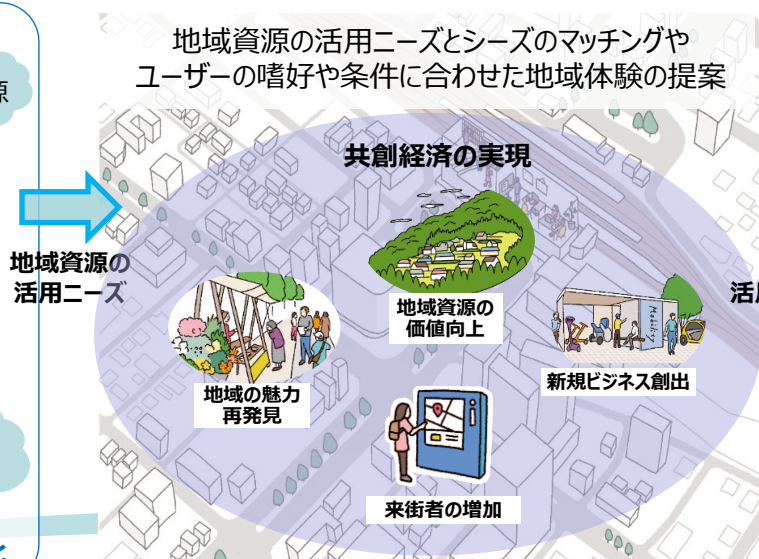
- 地域資源（自然・伝統文化・ローカル産業・人的資源など）の収集・データベース化し、地域資源への情報アクセスや利活用を促進
- 地域資源の活用ニーズと活用アイデアを掛け合わせ、新たなビジネスモデルを創出する仕組みの構築

取組イメージ

地域資源とその活用ニーズのデータ化



活用ニーズと活用アイデアを掛け合わせる仕組み



まちづくりにコミットする企業・団体・個人等



テーマ案2：地域における面的な見守りのデジタル化

デジタル技術を活用し、地域における面的な高齢者見守りの実現を目指します

目的	スマートメーター等のデジタルツールを活用した、地域における面的な高齢者等の見守りを実現する手法を確立し、安心・安全を提供する
想定するサービスの範囲	<ul style="list-style-type: none">・世帯単位を対象とした見守りを地域に広げ、面的な見守りを実現する技術の開発・上記技術を活用して異常を検知した際に、地域組織等による迅速な対応を可能とする体制・システムの構築

取組イメージ



地域における高齢者等の面的な見守りを、データ取得から、可視化、関係各所での迅速な対応まで、総合的に対応するソリューションの開発

テーマ案3：リアルタイムでの環境情報の提供等による回遊の高度化（暑熱対策）

気温・日陰等の環境情報をリアルタイムに可視化し、クールスポットの提供等を実施することで、回遊性の向上を目指します

目的

夏期の高温化や、猛暑期間の長期化が進行するなか、デジタル技術を活用し、住民・来街者の快適性の低下を防ぎつつ、地域経済の維持を考慮した回遊性向上策を確立する

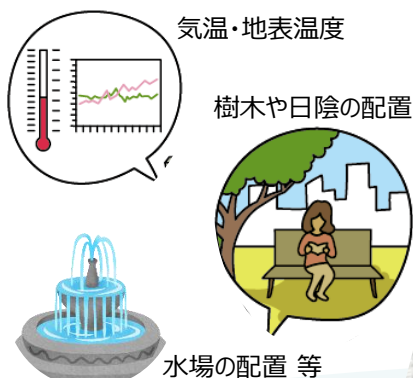
想定するサービスの範囲

- ・エリアの気温、地表温度、日陰情報等の情報をリアルタイムで取得し、可視化・発信する技術の開発
- ・上記のリアルタイム情報と連動した、クールスポットを創出する技術の開発
- ・サービス提供による人流への影響を把握する仕組みの構築
- ・サービスの持続性を担保する仕組みの構築（エリア内の店舗・行政等にもメリットのあるサービス戦略）

取組イメージ

環境データの取得・表示

- センサー等によりリアルタイムで環境データを取得・表示



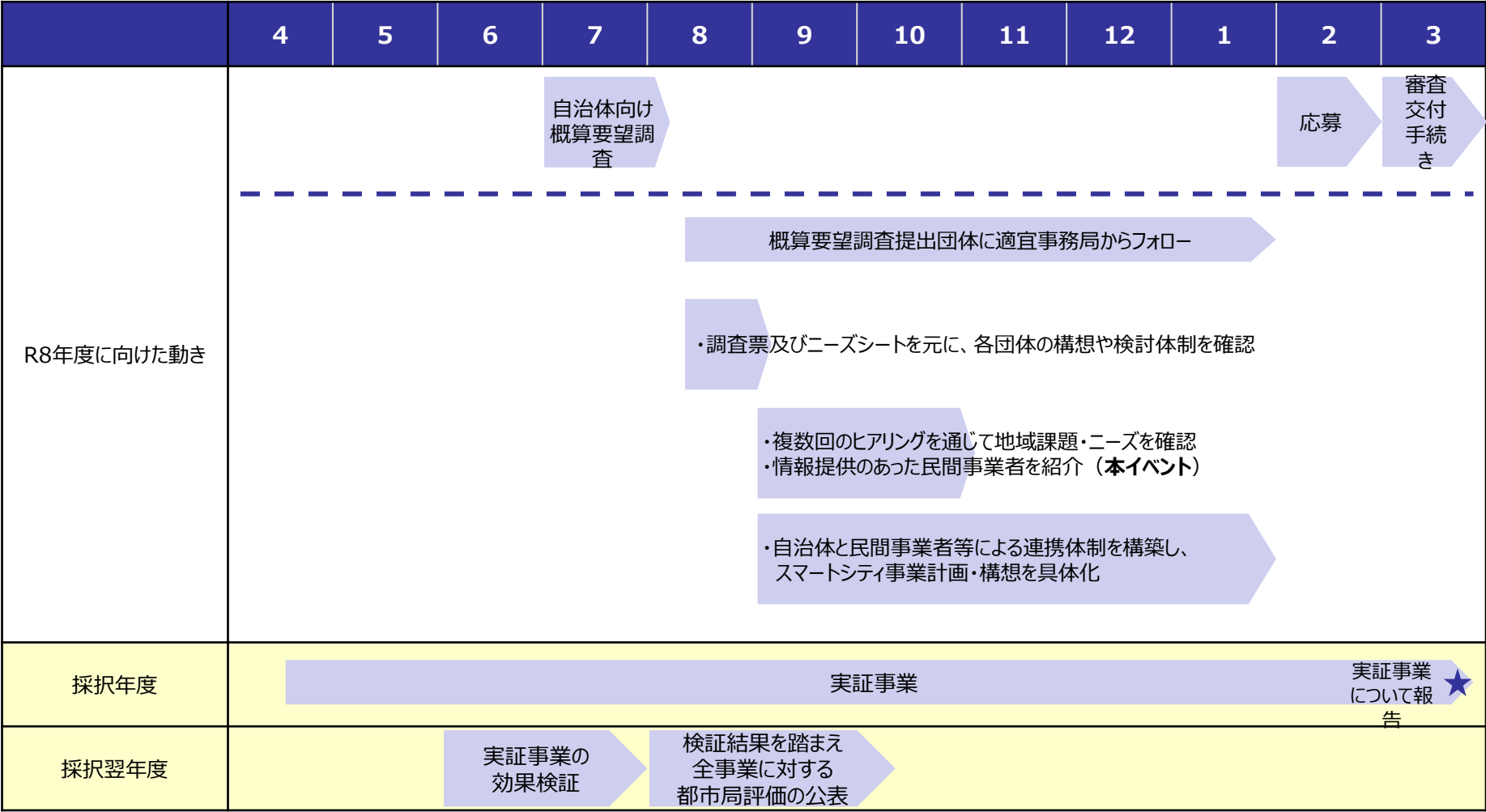
リアルタイムデータを踏まえた、多様な情報を発信



リアルタイムの環境データの取得から、ルート提案等により来街者の行動変容を促したり、現地の対策オペレーションを高度化するなど、暑熱に対する総合的なソリューションの開発

事業スケジュール（想定）

- ・実証期間をより確保できるよう、今年度採択分より応募時期を前倒し。
- ・応募予定の場合、支援条件の確認や都市局への事前相談をお願いします。



都市局事業を活用した取組



Google 検索

文字サイズ変更 標準 拡大

音声読み上げ・ルビ振り

検索方法 ▶

ホーム ▶ 国土交通省について ▶ 報道・広報 ▶ 政策・法令・予算 ▶ オープンデータ ▶ お問い合わせ・申請 ▶

国際・デジタル

ホーム > 政策・仕事 > 都市 > 国際・デジタル > 先進地域のスマートシティ実行計画・取組内容

先進地域のスマートシティ実行計画・取組内容

国土交通省では、全国の牽引役となる先駆的なスマートシティプロジェクトに対し、スマートシティの実現に向けて、都市・地域における将来像、将来像の実現にむけた課題・取組、取組の社会実装に向けたロードマップ、社会実装後の持続可能な取組体制等を示した「スマートシティ実行計画」の策定及び実装に向けた実証事業について、資金、ノウハウの両面から支援を行ってきました。
この実行計画に基づき、今後も各地でスマートシティが社会実装されるよう、関係府省連携のもと引き続き支援をしてまいります。

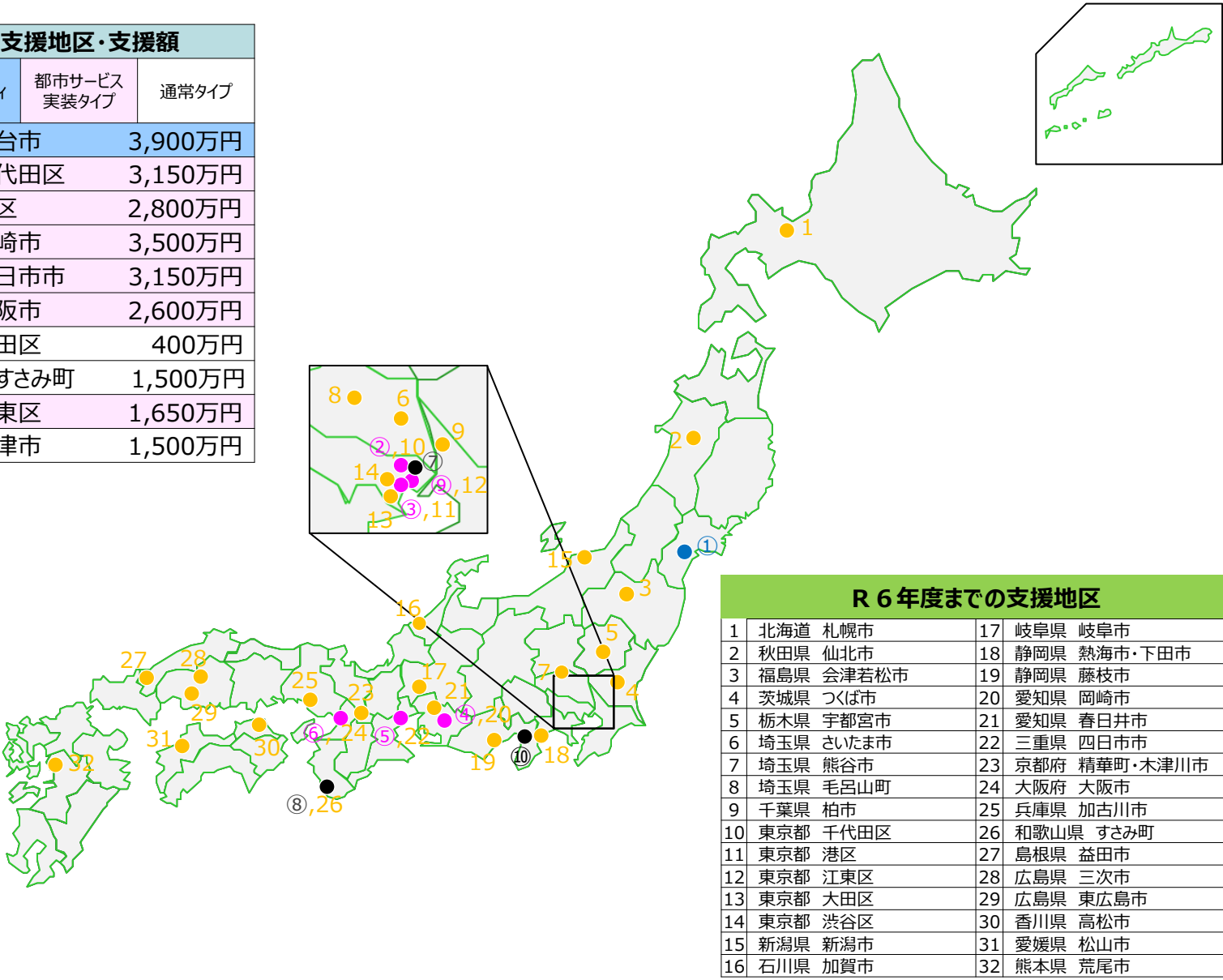
事業名	実施地区	支援実績	実行計画	取組内容			関連キーワード													備考
				概要	詳細	報告書	モビリティ	ロボット	ドローン	カメラ・センサー等	アプリ等	顔認証	移動・人流データ	インフラ維持管理	防災	健康・医療	賑わい・観光	エネルギー	デジタルツイン・3D都市モデル	
ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ	北海道札幌市	R1・R2 R3	概要	R2年度	R2年度	Q	●				●		●			●	●			
			詳細	R2-3年度	R2-3年度	Q					●		●			●	●			
			本文	R3年度	R3年度	Q							●							
仙台市泉区におけるスマートシティ	宮城県仙台市	R1・R2	概要		R1-2年度		●					●	●							
			詳細	R2-3年度	R2-3年度	-	●					●	●							
イノベーションの駆動力としてのスマートシティ	秋田県仙北市	R1・R3	概要	R1-2年度	R1-2年度	Q														
			詳細	R1-3年度	R1-3年度	Q			●				●							
			本文	R3年度	R3年度	Q			●	●		●				●				
				R3-4年度	R3-4年度	Q			●				●			●				
オプトインによる共助型分散社会の実現（命を守るデジタル防災）	福島県会津若松市	R3・R4・R5・R6	概要	R3年度	R3年度	Q				●						●				
			詳細	R3-4年度	R3-4年度	Q										●	●			
			本文	R4年度	R4年度	Q										●				
				R4-5年度	R4-5年度	Q					●					●				
				R5年度	R5年度	Q					●					●				
				R6年度	R6年度	Q					●					●				
スマートシティ「つくばモデル」	茨城県つくば市	R1・R2 R3・R4	概要	R1-2年度	R1-2年度	Q	●					●				●				
			詳細	R1-3年度	R1-3年度	Q	●					●				●				
			本文	R2-3年度	R2-3年度	Q	●						●			●				
				R2-3年度	R2-3年度	Q	●			●										
				R3年度	R3年度	Q	●			●		●	●			●				
				R4年度	R4年度	Q	●									●				

https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000051.html

令和7年度 スマートシティ実装化支援事業 支援地区

R7年度支援地区・支援額			
【凡例】	戦略的 スマートシティ 実装タイプ	都市サービス 実装タイプ	通常タイプ
①	宮城県 仙台市		3,900万円
②	東京都 千代田区		3,150万円
③	東京都 港区		2,800万円
④	愛知県 岡崎市		3,500万円
⑤	三重県 四日市市		3,150万円
⑥	大阪府 大阪市		2,600万円
⑦	東京都 墨田区		400万円
⑧	和歌山県 すさみ町		1,500万円
⑨	東京都 江東区		1,650万円
⑩	静岡県 沼津市		1,500万円

※⑨⑩は二次公募採択
※④⑥は追加配分を実施



R6年度までの支援地区			
1	北海道 札幌市	17	岐阜県 岐阜市
2	秋田県 仙北市	18	静岡県 熱海市・下田市
3	福島県 会津若松市	19	静岡県 藤枝市
4	茨城県 つくば市	20	愛知県 岡崎市
5	栃木県 宇都宮市	21	愛知県 春日井市
6	埼玉県 さいたま市	22	三重県 四日市市
7	埼玉県 熊谷市	23	京都府 精華町・木津川市
8	埼玉県 毛呂山町	24	大阪府 大阪市
9	千葉県 柏市	25	兵庫県 加古川市
10	東京都 千代田区	26	和歌山県 すさみ町
11	東京都 港区	27	島根県 益田市
12	東京都 江東区	28	広島県 三次市
13	東京都 大田区	29	広島県 東広島市
14	東京都 渋谷区	30	香川県 高松市
15	新潟県 新潟市	31	愛媛県 松山市
16	石川県 加賀市	32	熊本県 荒尾市

4 ピッチ

5 サウンディング

サウンディングの目的と設問一覧のご紹介

都市局の戦略的テーマに関する課題について官民双方の立場から意見交換を行い、今後の双方の連携・マッチングの円滑化と他団体にとっての学びの獲得を意図して実施します

- サウンディングとは、通常地方公共団体等が民間事業者との意見交換を通じ、特定の事業に対して様々なアイデアや意見を把握する調査を指す。
- ただし、本日は、都市局の掲げる戦略的テーマについて、地方公共団体および民間事業者側の双方からどのような課題があるのか、そして課題に関してどのような打ち手が考えられるのかを議論することで、今後の双方の連携・マッチングの円滑化と他団体からの知見の共有による学びの獲得を意図して実施する。

【設問①】

戦略的テーマを見ていただき、地方公共団体側に具体的に関連したニーズがあるか。また、進めるにあたって何が課題になるか。

＞ 地方公共団体向け（15分）

※冒頭、ファイアスターから5分程度

【設問②】

地方公共団体の課題に対してどのような打ち手が考えられるか。

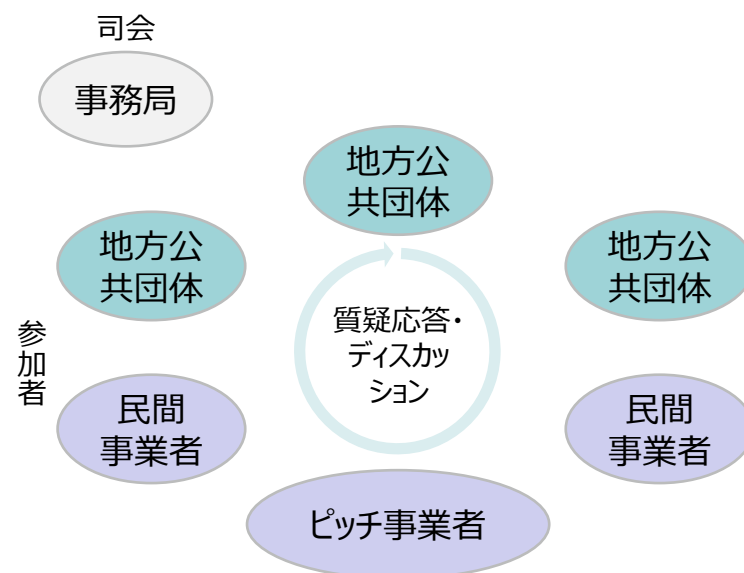
＞ 民間事業者向け（10分）

※冒頭、ファイアスターから3分程度

【設問③】

その他、先進団体からの解決方針・取組方針の共有があればご意見いただきたい。

＞ 地方公共団体向け（5分）



戦略的テーマ1：地域資源の発掘・発信による地域の賑わい・生業創出

デジタル技術を活用し、地域資源の有効活用によって地域における共創経済の創出を目指します

目的	地域の多様な資源が十分に利活用されていない現状を踏まえ、デジタル技術による発掘・発信を通して、地域内外への情報発信力を高めるとともに、地域の賑わい・生業を創出する
想定するサービスの範囲	<ul style="list-style-type: none">地域資源（自然・伝統文化・ローカル産業・人的資源など）の収集・データベース化し、地域資源への情報アクセスや利活用を促進地域資源の活用ニーズと活用アイデアを掛け合わせ、新たなビジネスモデルを創出する仕組みの構築

取組イメージ

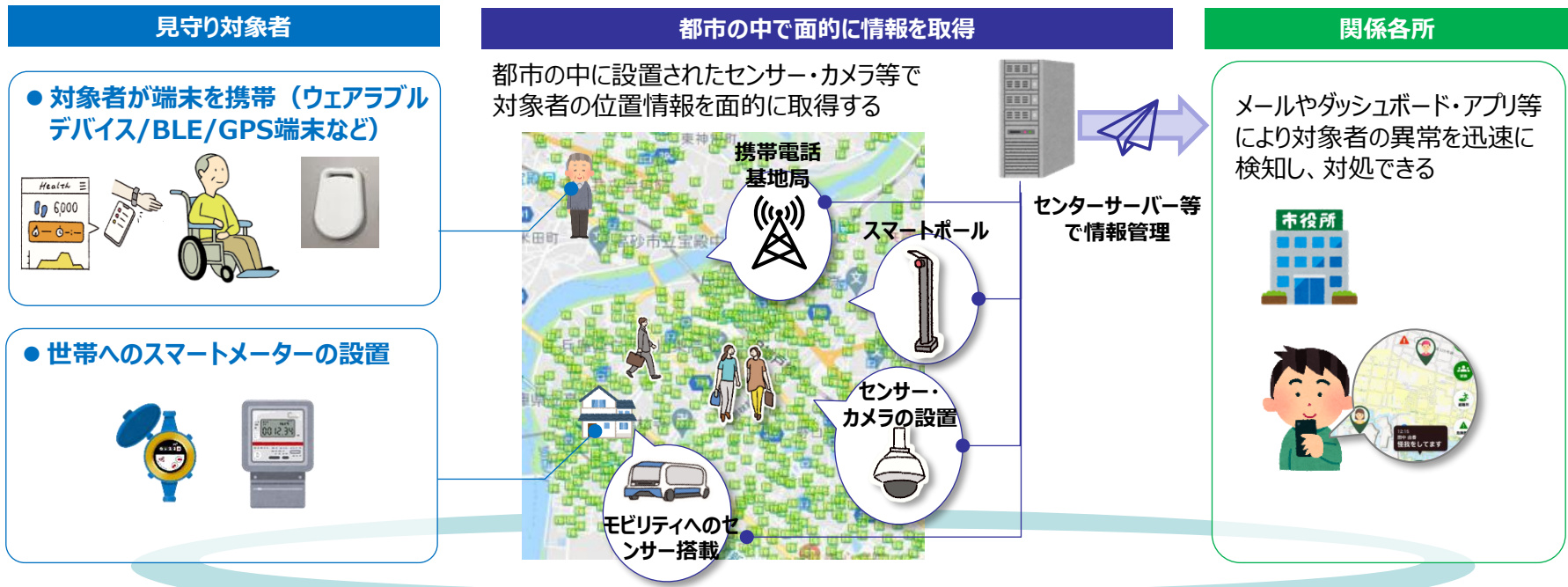


戦略的テーマ2：地域における面的な見守りのデジタル化

デジタル技術を活用し、地域における面的な高齢者見守りの実現を目指します

目的	スマートメーター等のデジタルツールを活用した、地域における面的な高齢者等の見守りを実現する手法を確立し、安心・安全を提供する
想定するサービスの範囲	<ul style="list-style-type: none">世帯単位を対象とした見守りを地域に広げ、面的な見守りを実現する技術の開発上記技術を活用して異常を検知した際に、地域組織等による迅速な対応を可能とする体制・システムの構築

取組イメージ



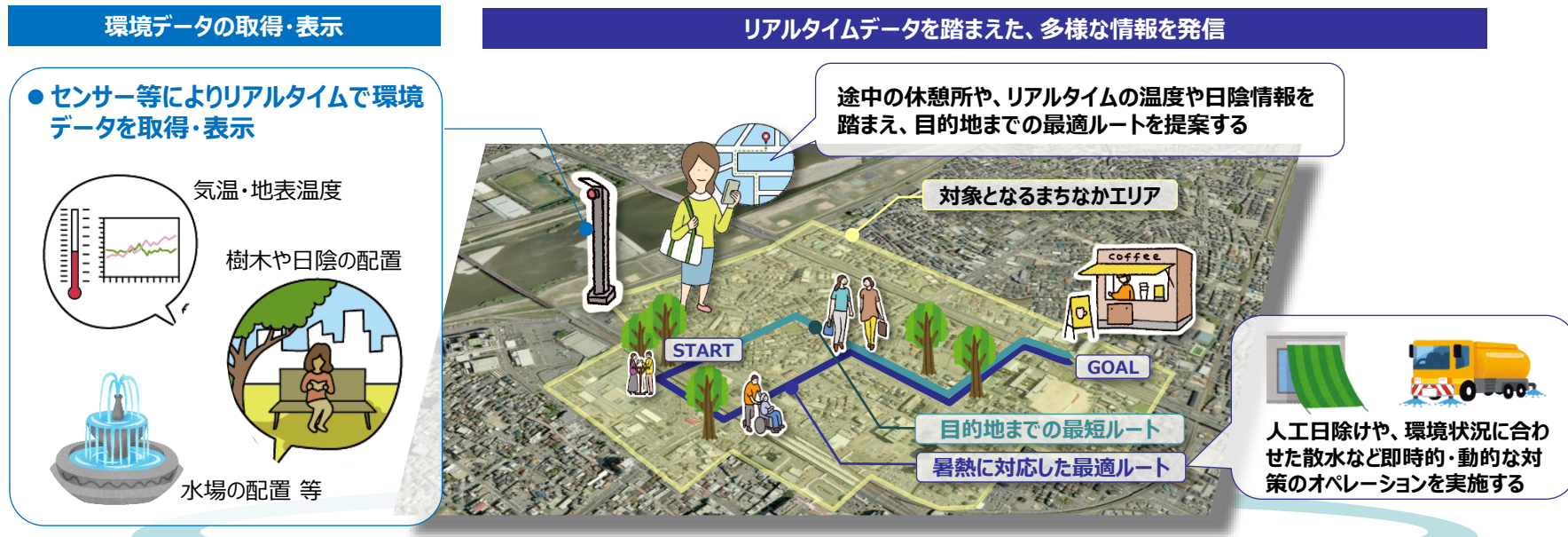
地域における高齢者等の面的な見守りを、データ取得から、可視化、関係各所での迅速な対応まで、総合的に対応するソリューションの開発

戦略的テーマ3：リアルタイムでの環境情報の提供等による回遊の高度化（暑熱対策）

気温・日陰等の環境情報をリアルタイムに可視化し、クールスポットの提供等を実施することで、回遊性の向上を目指します

目的	夏期の高温化や、猛暑期間の長期化が進行するなか、デジタル技術を活用し、住民・来街者の快適性の低下を防ぎつつ、地域経済の維持を考慮した回遊性向上策を確立する
想定するサービスの範囲	<ul style="list-style-type: none">エリアの気温、地表温度、日陰情報等の情報をリアルタイムで取得し、可視化・発信する技術の開発上記のリアルタイム情報と連動した、クールスポットを創出する技術の開発サービス提供による人流への影響を把握する仕組みの構築サービスの持続性を担保する仕組みの構築（エリア内の店舗・行政等にもメリットのあるサービス戦略）

取組イメージ



リアルタイムの環境データの取得から、ルート提案等により来街者の行動変容を促したり、現地の対策オペレーションを高度化するなど、暑熱に対する総合的なソリューションの開発



技術・制度面の課題

- 地域の現状把握や課題の体系的な整理が不十分
- 利用者像・ニーズの分析が不十分
- 自治体間・分野間のデータ標準化不足
- 個人情報保護・セキュリティ規定の調整が困難
- 公平性・包摂性の確保が困難



財源面の課題

- 持続的なビジネスモデルが未確立
- 資金調達計画の作成が困難
- 地方公共団体の予算制約
- 費用対効果の見える化が不十分



体制面の課題

- 専門人材の確保が困難
- 縦割り組織の影響で横断的体制構築が困難
- 域内外のステークホルダーとの連携体制不足
- 域内のまちづくり団体等の関与が限定的
- 複数関係者間の円滑なコミュニケーションに難航



住民理解面の阻害要因

- デジタル活用に対する世代間格差
- 住民意見を反映する仕組みの不足
- 住民理解の醸成に難航
- サービス普及への仕掛け不足

6 閉会

懇親会・都市局との個別相談会 (任意)